枝

片

短柄 デアル、 ノ様ニナリ ヲ ャ アル細微ナ腺ガ滿布シテヰル、若シモ昆蟲ヲ捕へ込ンデ其葉ガ閉ヂタ時ハ其葉内ハ宛カモ一時假リノ胃 放サナイ 直 畢竟此腺ハ分泌、 其葉面ノ腺カラハ消化液ガ 分泌セラレテ蟲體ヲ消化シ更ニ之レヲ 吸收シテ以テ 我ガ養分トスルノ 文葉面 ガ旣ニ其蟲 兩方カラ急ニ 吸收ノ兩用ヲ無ネタ働ヲスルカヲ持ッテヰルモノデアル ガ 死ンデ仕舞へが復ビ自然ニ其葉面ガ開クノデアル、 閉ヂテ其昆蟲 ヲ包ミ込ミ其蟲ガ死 ヌ jν 力 或 此葉面 弱 IJ 果 テ 小葉縁ノ. ケ ナ 方ハ除 ナ jν 才 テ デ

Venus's Fly-trap (即チヴィー ヲ司ド 曾テ私ハ吹ノ如ク書イテオイタ、卽チ「其屬名 Dionaea ハヴィーナス卽チ Venus (ロー :蘭西デハ L'attrape-mouche ト呼バレテヰル `.` ≥ タ Æ ル女神ノ名)ノ希臘名、 ノト 見エル 其レユヱ ナスノ蠅取リ器)ト稱スル」デアッタ、獨逸デハ Venus die Fliegenfängerin ト稱 書ニョッテハ muscipula, a fly-trap ト解シタモ 其種名 muscipula ハ卽チ Mus-capio デ鼠捕り器ノ事デアル ノガアル、 7 ノ神話ニ ガ之ヲ蠅捕 通常此草 アル戀 リ 俗名ヲ 器 ŀ 美 轉

## ) 斷枝片葉(其五十三)

野富太郎

牧

球形 屋+( 名ヲ Gardenト Render 氏ガ之レヲがまずみノ一變種トシテ Viburnum dilatatum Thunb. var. Æ ニテ採集セラレ 黄實ノが ヺ ガ永ク前 成シテ微シク平扁 とまずみ Þ 云フ一園藝雜誌デ始メテ發表シ後同氏ノ著 Manual of Cultivated Trees and Shrubs Hardy ・カラ在 タ黄熟 昨秋東京植物同好會々員ノ久保田禮治君カラ同君 iv ŀ シ 徑凡ソ七「ミリメート ノ事デアル、 タ質ヲ着ケタがまずみヲ惠マレタ、 其果實ハ普通品 jv 許モ アッタ、此品ハ曾テ米國 Arnold Arboretum ノ赤キニ反シテ全然美麗ナ純黄色ヲ呈シ 其根小屋ニハ人家 ガ同 君ノ郷里相州津久井郡 xanthocarpum Render. ノ外ヅレニ 唯一 本此實ノ生 タ Æ 串 ノ ALFRED ノデ 川村根\* 毎 果 jν 1/12

色

ヲ

附

與ス

jν

ニ用ウル、

叉往々此

實ヲ一種

ノ菌類ガ侵シ

テキ

jν 事ガ

ア

jν

ガ其場合ニハ其未熟實

滿

面 漬

=

白毛

ガ

٠,

其赤

セ

jν 中

Æ

ノヲ能ク村里

ノ小兒ガ採テ食ス

處ニョッテハ之レヲ 漬物

桶 タ

1 中二

入 云

v フ

を其

物

赤

キ

America

Æ

記

載

セ ラ

v

テ

丰

w

私 ハ之レ

ガ jν 和

名

コラ黄質の

が

まずみト

୬

因

=

一普通

が

すず

(37)ざヲ ヲ現 さき科ノきうりぐさヲたびらこト云フノモ大變ナ 間違ヒデアル)デ諸處デ現ニ農夫ハサウ 謂ッテヲリ且 らへ—Lampsana apogonoides Maxim. (やく科) デア 此 中 たうきんせんくわ 花ヲ出シ ナ 央頭狀 ŀ テ ほとけのゴハ名ハ同ジデモ七草ノほとけのゴデハナイ、 テ ほとけのざ (Lamium amplexicaule L.) ガ閉鎖花ヲ出ス事ハ早ク世ニ知ラレ 枝 畄 其 7 其レ コル ダ下ニハ橢圓 由 疾ニ 程まずい 流 ハ多分花穂 丰 其 花 ノタ jν ラ線苞: ヲ 揭 周 /小筒狀ヲ成 出 知ノ 者 抑 われもかう (Sanguisorba officinalis L.) ニモ偶マニ同様ナ事 ゲ 味 デ モ ス タマデッ ナヘ 草 事實デアルガ然シ其周圍ニ放射シ出ヅル枝梗 |片ノ腋カラ出テヰルノデアル此事實モ旣ニ判ッ 此 (Calendula officinalis L.) ノ頭狀花ガ更ニ其周圍 ノ持チ主デ食用ニ 形 基部カラデモ出テヰハシナイカト思フ ハ他ニハ見ナイ、 レ 前記 セル花冠頂 長柄ノ子葉ヲ着ケタマヽ丈ケ僅カニ「センチメートル」許 ハ アル、まつむしさう (Scabiosa japonica Mro.) ノ頭狀花 何 ト ノほとけのざト見做シテキル 云フ 菌カ菌學者ノ 御教示 ヲ紅紫色ニ染メテヰルノヲ見受ケル、 ス 此草 べ キモノデハナイ、七草ノほとけのざい前記 ハ秋ニナッテ乃チ生エルガ十月十一月ノ候野外 )レ ト ヲ仰 ノハ誤リデ本物ノほとけ ソシテ其昔ノ名ガほとけのざデア ギタ 此唇形科ノほとけのざハ之レヲ喰 テヰル事 デアラウ 何處 ィ ほとけのざハ逸早ク閉鎖花ヲ出 = カラ發生 小枝ヲ出シテ第二次 因ニ言フ彼 ゛ガ アル たうきんせんくゎ j シテヰ タ事實デアッテ實際是 Æ Ó モ ガ此花頭ニハ總苞 ノ通リ今名ハたびらこ(むら 亦時 ざいこなに ノデモ已ニ ガ頃日之レ ノ春の七草 jν = カト云 右ト \_ ラ小 jν 就 • ヲ實 其梢 同ジ フト テ之 ノ複 たびらこ= 形頭狀花 へバほき出 卽チ今日 ノ中ノほと 狀態 頭二 ハナ 此 頭 v ス 檢 ヲ 狀 V 3 V ツ處 注 程 タカ オ ヲ 皆 意 脣 閉 頻 着 72 曆 力 Æ ラ ラ 其 形 ŋ ス

(其五十

行發月一年七和昭 (38)文學 ズ植 他 デ 叙 地 ヲ Ħ 天下 筑 絕 らて(むらさき科) 殊 3/ テ人 ヂ゙ ^ ッ 膝 後 拜 方 同 物 モ 更 テ ッ テ 一崇時 **人**留 j サ 君 = 面 ヲ ハ 風 デ活 交 丰 標 雕 · ウ謂 之 之 = タ 邂 米 然 廱 エ 本 v ガ ヺ 市 躍 テ 逅 デ ッ ヲ ヲ 3/ ŀ 、蘭山 テ 敷談 ナサウ 食用 私 Ш 大 **୬**⁄ **≥**⁄ シ テテ之 ヲ 柳 テ タ 正 = 莊 涘 jν 云 島 = ノ説ナラ大抵之レ = シ ガ 關 其時 = ۴, タ 车 町 v フ 供 ッ ァ モ 必要 其 七 = ゥ テ シ 二 **≥**⁄ ıν 拘 生レ 從ッ タ 力 時 同 月 來 テ ノ デ 多 ハラズ其 三十 ŀ 同 君 テ 丰 其 小 名稱 ク 大 君 رر タ タ jν 人ダ ) 其 名 ァ = **୬**⁄ 力 ガ゛ 著書 ラ 地 屯 勸 稱 デ 普 H ノ重複スル アラ信 ァ  $\nu$ ナ ラ 尋 × 同 カ ŀ 通 ノ 高梁 ヲ殊更ニこらに ク質際 ラ 굸 タ 君 ガ w ノ 發 事 著 人 同 ネ フ ジ蘭山 米中學校 荆 モ 作 八 タ ガ = 以前 月四 ア セ ガ ヲ避ケテ其レデ此新名ヲ拵 狂詩 ラ ッタ 其 二、此 方言通 其 陸 紭 V = 日 時 故 泰職 中 西 タ むらささ科 7 = 其後[ たびらて(飯沼慾齋著 ジリ單 • 小 デ 標 原 氣 一ノ闘ノ中學 惜 備 1111 本 セ ガ 同 ラ 中ガ高続 之助 附 子 Z, = ラ 君 ヲ v たびらてト云ッテョ " クハ ハ遂ニ 惠 テ居 旁 梁冷 1 ~ 者 前 Ė 7 イ 晚 デ 校 ラ タ V = Ш ノデ私 车 タ**、** 植 デ博 西ずた こる 屯 柳 原ディング 物 病 私 ヘタ 文學 話 物 ヲ IC 方 胃 カペン ハ ノ 1 屯 た = デ盛 木圖 序 腸 習 先 遺 び ノ 度同 ィ 會 生 君 らこ = = E デアラ ッ 說 。譯デ 名 得 私 テ ガ ヲ 品 ヲ 慶 勤 ラ 昭 7 丰 君 ダ 博 同 ッ ンメテ 7 應 ŀ 唯 ノ w ŀ ゥ 瓜 IJ 和 3/ 君 元 名 植 定 此 居ッ 四 年 且 物 柳 舑 其 = 時分 ケ メ 訪 後 屯 學 敎 牟 雨 久 タ  $\mathbf{H}$ テ タ 月二 加 師 間 **୬** 人 1 間 ヲ ハ 當 ブ 月 雅 ヲ **≥**⁄ シ ッ 蘭 十六日 # 號 久 IJ 時斷 别 ク タ 俚 云 山 豁 音 デ 七 メ 7 フ 遽 デ

た デ

松山 里 Ш 名物 jν 7 昔カ 吉田 名 デ V n 所 其實 插 ぎや、紫井 ラ 伊 畅 津 豫節 桃 Ö たねつけばなノ近縁者やほばたねつけばなデア 朝 ŀ 戶 桃 市 稱 0 道 ス 地 片目鮒 w 俗謠 0 揷 湯 3 薄墨櫻 ガ テ能ク活着スル由 ァ 音に ッ に名高き五色素麵、 緋 0 伊豫絣」三 叉 酒間ナ 高井の里の デ Į, 日 ァ デ jν 0 謠 ıν 初 ていれぎ フト 高 此 井 うた の村 吉田 事 ニトア ノ中 デア (溫泉郡) 挿さ ル此 ノ「十六日 jν 桃 即チ其うた ていれぎハ葶藶 淸 かきつば 冽 0 ナ 初櫻 水 **二** 流 伊 ガ 高が豫井。の 西 カ ア ラ 山 出 松 二

貔

里

人

留

米

市

ナ

ıν

九

州

醫

璺

専門

壆

校

、附屬

病院

データ

・ヲ享ク

n

六十六歳デ

歿

**୬** 

タ

豫

\$

伊

豫

H

テ ヲ 同 枝

片

葉

武州 ヲえ 之レヲ知 ŋ ガ モ ヲ 其 、其時 えひ テヤ 寺ニ 延 テ チ松 ŀ. 處 テ 右 品品 山 Z = 山 能 在ッテうすずみざくらト呼バレテヰ B ラ デ 市 生 朝鮮 此品 あや 腰折 ゥ 町 あ ラ ノ 辛 中 ŀ ´ナイ**、** 第一小學校前庭ニ大キナかごのき (Actinodaphne lancifolia Meisn.―くすのき科) ガ 名物 味 八 三旣 めノ ġ Щ 私 、滿洲ニ多イガ之レヲ觀 思ッテヰ ガ 百 (愛媛あやめ) 產 デ 7 了標品 私ハ 名ヲ與へ 7 屋 數 = jν 往時 jν ヵ゛ 年 他處 售リニ ル、「こかきつばた」ハ腰折 料亭ナド 此 力 ŀ パラ呼バ 寫眞ト 品 タノハ私デアッテ其當時松山ニ植物ニ熱心ナ奥平幹一君 實況 1 出デ八 ŀ ハ モ 武州 新稱 デ之レヲ使ッタラ至極 ラ觀 ) レテヰ ヲ送ラレ ر 武藏野 之 百屋 = ル者 **≥**⁄ レ 行 タ Þ ガ , タ ハ誰レデモ其可愛ラシ 、 店頭 ル、「緋の蕪」ハ紅色ノかぶデ名物デアル 事 私ガ其レヲ研 たれゆゑさらナル佳 ノ原中清水 ナ デアッタ、此品ハ 1 ガ ŀ デ ア 更二 Щ 言  $\mathcal{V}$ 三野 ハ 之 良 貧 ノ レ イト テ 生スルたれゆゑさらノ雅名ア 流 究シテ其學名ヲ同 3/ 丰 ヲ jν \* 尙 常用 思フノデ 農家 iv ` ホ 處デ 名ノアル事ヲ私ハ知ラナカッタ イ花ノ姿ニハ愛着ヲ 感ズルデアラウ、「薄墨櫻 他ニ九州ノ豐後、中 之
レ 者 モ = 者 何時 處 賣 ヲ カ 魚 Þ w 其 定シ 力 =. 1 1 V 親 、さし身 生 デ ヲ 叉右 **୬**⁄ ア 採 ジ ク其 テー・テー・テー・ jν テ 國 (今ハ故 毎 ノ和名ヲ付ケタ jν V 側 此 v 年 ヲ 周防、 小形 ۲, 高 = +携 屯 r 井 月頃 かごのきノ大木 入ト 東京 **≥** ノ オ ノデ其 本 ラ 力 安藝ナド アッテ高サ ナ 場 IJ ラ テ Ł ゚ッ ス 料 テ 冬 ノ タ 理人 賞 デ ハ モ デ 間 ガ , ァ デ 味 此 約 Æ 居 ッ 向 ガ 最 ヌ ラ 敎 r

檢 ヲ テ 五 文、 生 **₹** 說 タ記 ケ ジ 幹 ハ今玆ニ略スル、 テヰ ズ 斡 中 事 = 夹 ル(因ニ 目通リ六尺四寸圍 ア jv \ 其玉座ヲ 枯 V 云フ、土佐 此校庭 樹膚ニ こふきたけ (Fomes appranatus Walle.) ト かごのきノかごハかて即 讓 ٦ ١ 該株 テヰル、呵々)右ハ大正 !デハさるのこしかけヲぁにのこしか 根元ヲ距ル二間位ノ處カラ枝ヲ張リ雄本デ樹齢 ハ歴史アル 木 チかのこデかのこし デ 往昔 八年九 其 月廿四 方ノ 日 H ぼり 東京 地點 ŀ 稱ス 稱ス ラ 植 力 略 ラ jν jν 物 分 **≥**⁄ 同 植 タ 好 土佐ざる 會 Æ ハ **୬**⁄ حَ ا 凡三百年許 ダ 4 貞 デ Æ ī גלל r ŀ 'n ŀ 本 同 jν 地 國 屬 B 二 デ ŀ 稱 の 赴 モ v ح ل 己 種 テ セ ラ 丰 V ガ 達 ぼ 時 附 w V ガ テ 實 腰 丰 ₹/

すがも

ノ利用

科)ノ葉デ馬ノ鞍

ノ下敷キヲ造リ之レヲ 店頭ニ置テ賣ッテヰル、大正九年二月五日ニ東京市外

磐城

平

カラ

Æ

デ

ア温谷町

商

Ċ

る

T.

しろ

賣

テ

丰

タ

Æ

ノヲ買

斷

枝

片

葉

(其五十三)

富

上山

=

多

シイカ

ラ其稱ヲ得タモノデ此レハ曾テ私ノ名ケタモ

ノデアル、此品又相州箱

根

山

モ

生

ーズルノ

圓 落シ其痕 宣 す結 0 一ガ單 こまだら ン ガ デ 反對 著 ŀ 3 ŋ ||薬間 = 同 流 斑ヲナシ ジ v r タモ ゥ 隱見シテヰ デ ・テ見ユ ノ平抑モ 鹿 1 毛 jν ガ jν 白 1 亦是レガ本名乎、 デサウ名ケタモ 班 = ナッテ ふじいばらノ巨幹 丰 w = 本品ハ暖地 ノデアラウ、 基 イ テ 謂 ッ ノ常緑樹デ樹ニ雌雄 夕 時ニ之レヲこがのきト ふじらばら (Rosa fujisanensis デ ァ jν か ځ 0 きノ ガ アリ 樹 呼ン 膚 木 デ 丰 其 秋 jν 皮 MAKINO.) ノハ ガ 赤 片 キル 其 4 呼 脫

凡 sativum Jessen var. hexastichon Hacket forma reflexa Makno. ノ學名ヲ附タノデ近ク之レヲ發表 大正八 ソ八尺許モ ・ノ一節゛ 年九月廿一 アッ ガ下方ニ隔 すがも一名ごもくさ一名はまくさ一名うみすげ(Phyllospadix Scouleri Hook.— タ 日同山 タリテ花ナク其節カラ屈折シテ花穂ハ斜メニ下ニ ノ冠岳デ私ノ出會ッタモノハ其幹根元カラ四五寸ノ處デ周圍四寸ヲ測リ 全株 さかさむぎ 此レハ信州川中島ニ耕作シテヰル大麥デ 因縁アル 向 フテ居ル、私ハ之レニ Hordeum ス デアル、 高サ 其

モア 軍デ 四十五錢 ハ砲 w ガ 澤山 兵 デ 是レハすがもヲ引キ返シ~~シテ少シク寬クネヂテ横向ケニ編ンダモ ァ ۲ 附 ッ 輜 着 重 シ 兵 テキ 席ノ ŀ ノ軍 ノ軍隊デ之レヲ使用シテヰテ其名ヲ 鞍褥ト呼ンデヰルト言ット・ポメタ時此物ニ就テ之レヲ店員ニ聽クニ其下敷キノモノハ 様二 jν Æ ノガ 編ンデアッテ長サガ二尺六寸幅ガ一尺九寸程モ 少ナクナイ、 又別ニ馬ノ首ノはも下ニ敷ク アル ルト言ッテヰ Æ ノデ上ヲ麻絲 ノガ 、此すが アッテ長 9 もノ葉上 其時 デ繋ギ サー 尺六寸 ごノ賣値 ニハ石灰質 速ネ テ 幅 は 天 ઢ 枚陸 寸

差葵ト

何ンナ草平

蒐葵ト云フ草ガ 支那ニ在

我邦

本草學者

本品ニ

就テ 對 カラ

大分考へタャウダ

ガ

下

= 北

ゥ

jv •

此方 1

æ

ハ石灰藻ノ附着ガ非常ニ少ナイ

ガ此レハ北海道

來

タ

モ

店 ゚ッ

話

デ

海

道 キ

カ 用

ラ

ノ

Æ

ハ

右 į

藻類 ノニ

ガ

着イテヰナイト

ノ事デアル、

此

Æ

1

價

デ

三十錢

デア デ

× 員

學

者

モ

能

品

ヲ

突

止

ķ 之レ

得

ナ

カ

ッ

タ、

之
レ

**ヲせつぶんさうダ** 

ŀ

調ッ

タ

之

ヲぎんせん

n

卽

チ

7

Ÿ 或

レテ

丰

jν

おう

ŀ ク

ッ īΕ

ハ

ヲいちやくさうダ

採ッ 花 ヲ始 ツマ 舊世界 テ此草 ナイ事 イ ナッテ居テ花後 ホ 其レ デ其 通 進 ラ さくらたでハニ形花ヲ有スル 汐 故其 タ ŋ ラ品 有 メ ク ン モ 皮食 圓 其働き ۸ デ ŀ ス 楯 謂 北 其 デ ハ ŀ jν 3 V ハえぞみそはぎハ三形花ノ持主デアル事ハ能ク人ノ識ル所デアルガ我みそはぎモ **≥** 一本品 形 ŋ ヒン 同 ァ 事 ユ 溫 ヲ はくちゃらげ、つるあらどほし、 方ヲ一方ノ 變種ニ 粘 滯 ッ jν 力 仮 種 **まんねんたけ即チ靈芝ヲ昭和三年八月同** 或 デ 先 眼 ラ言フト ニ果實ヲ結バヌ、一 小 ガ 我日 光 形 廣 K 7 7 ハ 私 時ニ中 ナイ = |紙背ニ徹ラヌ者デアル、 n " jν 八此 カラ其 我實檢ニ モ 産シ今日デ ŀ 本 云ッ 力 一ハ雄性ヲナシ ) Ė 方面 央ニ ハ デアッティ 絕 タモ恐ラク机上デ製シ 老 スルナド、云フ人ハ恐ラクアリハ v アだにれ ヨッテ之レヲ確 Æ エ 専攻者デナイ ーテ産 *γ*ν, アリ ハ諸處ニ野生ノ姿ト 株ハ短雄蘂長花柱 さくらたでノ花ハ二形的デ 採集者 或ハ稍偏 ダ日本へハ來テヰナ ŀ セヌモ 謂ッタデ 一ハ雌性ヲナシテヰルカラ畢竟此さくらたでハ いなもりさう、 植物 , ) カメ ・デアル 力 言ヲ ラ能 ハ タ ニ此ノ如ク二形花ヲ有スル例 ナ タ 聴ク ト謂ッタ、然シ悉ク皆的 得 ) ノ花ガ咲キ " カラウカ、あふひ科ノ 3 、ユヱ何ントシテモ其名實ヲ一 æ タ ナッテヰ 地 イ加減ノ名デアラウ、「煮噉フテ極 ハ分ラナ r = 其生 イヤヤ デ費ヒ受ケシガ リ 叉普通ニ いはいてふ、あさど、みつがしは等モ其レデア ・ウダ ルモ エ スマ 一株 此 ノイ・ 圓楯 テ レハ雌性ト ガ私ハ其レヲうさぎあふひ ノガ 卽チ其品ダト思フ、ふゆ 丰 ガ ニハ長雄蘂短花柱ノ花ガ咲キ此 イガ若シ其レヲ敢テ 形 蓋 見 jν モ v jν 其レ まんねんたけ ラ外 此 1 植物ニ Malva parviflora 4 ウニ = ナッテヰ ハ其蕈柄 ハ先ヅ彼 | 其柄 種 一致サス 端 ・テ花後 ガ 葢 雌雄異株 程 ガ蕈葢 7 ス 連 事ガ 度 メテ滑カナ 亦同ジク儼然 さくらさら屬 ガ然シ其レ チ jν ガ ニ果實ヲ 州赤西 r フ下面 カ 出來ナカッタ譯 モ 稱 あふひ 7 Ľ. テ 植 v ୬ ッ モ 'n イテ ハ 無 其 中 タ 物 生 ハ タ 央 ズ 雄 ŀ ŀ = ッ 7 諸 理 テ 地 ス r jν 性 似 ッ r 着 テ デ 尙 jν ッ

斷 枝 片 葉 (其五十三

ズ

**≥**⁄

Æ

定

₹/

テ

퍄

ヌ

事デ

ァ

ッ

斷

枝

片

葉

+=

時 也人 ンシナト誤マラレタひ よもぎ 世 間 デ 時

此

デアル 攝綿志 乜 ダ メ 那)デ 何故 ŀ 言 **≥**⁄ 芝レ ナ Æ ハルヽ)ノ植物デアル 何ンデ (Semen Cinae 即チ Santonica) (原植物 ヲ セ × 屯 ナイひめよもぎ即チ ン **≥**⁄ ナト呼ンダカニ就 ト謂テ栽エテヰル一ノ宿根草ガアル、 Artemisia vulgaris L. parviflora Maxim. -テハ此ニーノいきさつガアル、 ハ露領トル キスタン産デアルよもぎ屬 就テ之レヲ觀ルト其レハセ 明治二十五六年 云フよも 頃デア Artemisia でき屋 メ ン Cina

ŀ

種

行發月一年七和 草 産セヌガ其成分ノ幾ラカデモヲ我ガ此ひめよもぎガ含ンデヰレバものダガ其ンナ よもぎニ Ł リモ ガ がらデ裂片モ ガ田 初 メ アッテ ۶ 太クナッテ木質ヲ呈シ丈ケモ高クナリ中ニ 中芳男先 タ **୬**⁄ 能 力 ナ 或 ŋ ŀ 肖 ハ田 云 レ ル生ガセ 狹イ、 タ フ ハ = 九 モノデアル、 中先生ノ發意デアッタカ 州 トニナッ 肥 頭狀花ハ頗ル × 後 ン シ g, ナト 阿 山岩ク 蘇山 然シ 稱 、小形デ梢頭ニ群ガッテ穂ヲ成シ . 力 **୬**⁄ ,此草 ハ岡 テ當時 先生ノ ラノ者ダ 其レ ・ヲセ ノ向陽斜面地又ハ原頭、 ヌ ハ ŀ ハ「ス 私 ン ノコト **≥**⁄ 東京市本郷區金助 ハ テッ 能ク ナ À デアッタ、此草ガ田中先生ヲ中心トシ + 知ラナイ ŀ ーニデ 呼ブコ æ テキ 或ハ ŀ ガ 出 . ハ 町七十二番地ノ自庭へ栽エ 本 ル 來ルャウナ 往々海邊 固 品 3 リ誤リデアッテ 元ト 上ニモ言ッタ様ニよもぎノ屬 セ メン ノ地 ノガ シナ ハ = ノオ物 ア モ生ジ莖 向二 テ 無 ハ 葉ハよもぎョ 無論 世 テ居 誰 寧 問 V ウダ ガ ラ 11 サ 擴 V よも デ ゥ ヌ ž 云 其 ŋ IJ 思

Makino.) 野生ノかざぐるま くざきかざぐるま(forma ヲ 微シク碧紫色ヲ ト稱ヘル Var.monstrosa 誰 我邦諸州ニ ビテヲリ モ alba ガ知 家植ノ品ノ様ニ色ノ深イ者ハ見當ラヌ、此家植ノ者ニ偶ニ Planch. -Makino.) jν 野生ノかざぐるま (Clematis patens Morr. 如ク此屬 稱スル、其レニ白花紫花ノ兩品ガアッテ白花 ト呼ビ紫花ノヲ るりやこし又ハ ふぢぼたん ハ花瓣ガナイノデ其花ノ顔バセハ皆萼片ノ所作デアル ET DECNE.) ガ (forma corulescens ヲゆきおこし又 アッテ其花 重殴 ノガ アッテ之 白 ر کا 色 力

リひめよもぎハ只今ノ處吾等

ノ人間ニ對シテハ何ノ用途モ見出シ得ヌ一ノ雜草ニ

=

過 ŀ ギ

ナ

1

デ

ァ

7

ッ